

《担当者名》坂上哲可 tsakaue@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

本研究科のディプロマポリシー「高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎」を修得することを目指す科目である。

質の高いリハビリテーションを展開できる人材となるために、訪問リハビリテーション学領域における先進的な専門知識、技術と臨床に有用な理論を学ぶ。また、日本の社会構造を要因とする今後増加する年齢層を対象者と想定した医療の地域連携を念頭においた知識、技術を深める。（日本作業療法士協会専門作業療法士養成カリキュラムに対応する）
特論で学んだ知識と技術を基に臨床で経験した事例の実践報告を通して、効果的かつ合理的な作業療法について学ぶ。

【学修目標】

一般目標：先進的な専門知識及び技術を備え質の高い訪問リハビリテーションを展開できる人材となるために、先進的な専門知識、技術と臨床に有用な理論を学ぶ。具体的には、訪問作業療法における制度環境等を在宅生活の特徴を踏まえ理解すること、および、訪問作業療法士として生活支援におけるマネジメントの実践を理解することを目指す。

行動目標：

1. 訪問作業療法に必要な専門知識を説明できる。
2. 訪問作業療法に必要な専門知識を同定できる。
3. 訪問作業療法に必要な技術を説明できる。
4. 訪問作業療法に必要な技術を実施できる。
5. 訪問作業療法に必要な理論を説明できる。
6. 訪問作業療法に必要な理論を弁別できる。
7. 専門作業療法士養成カリキュラム示された知識を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|---|---|------|
| 1 | オリエンテーション | 科目の概要を説明し、一般目標に到達するために習得すべき行動目標を説明する | 坂上哲可 |
| 2・3 | 地域連携医療に必要な知識、技術1 （制度理解、地域包括ケアシステム） | 介護保険と医療保険のしくみ・報酬の理解、社会保険制度・障害者総合支援法・自立支援医療（精神通院）の特徴・利点・限界、訪問リハサービス提供機関（精神科訪問看護含む）、在宅系施設の種類と各施設において使えるサービス。 | 坂上哲可 |
| 4・5 | 地域連携医療に必要な知識、技術2 （社会資源、訪問リハの特性、法令順守、退院支援） | 在宅系施設の種類と各施設において使えるサービス、社会資源活用の意義、インフォーマルを知りマネジメントする、保健所、更生相談所、介護実習普及センター、包括支援センター、就労センターの機能を知る、個人情報保護、道路交通法、作業療法士法、権利擁護、成年後見人制度、監査、生活期（在宅）と急性期・回復期（病棟）との違いを理解し、メリットは有効に、デメリットに対し工夫する視点を、入院中から在宅生活安定までの支援について理解する、入院中から在宅生活安定までの支援について理解する。 | 坂上哲可 |
| 6・7 | 地域連携医療に必要な知識、技術3 （自宅での健康維持・合併症管理） | 健康で安全、安心な自宅での生活を送るうえで欠かさない合併症管理技術について講義する。 | 坂上哲可 |
| 8・9 | 地域連携医療に必要な知識、技術4 （環境 - 住まい・家とは - 制度的に訪問可能な住宅、住環境調整、家族教育） | 地域環境に応じた住居とその建築工学的配慮と各地方自治体による行政制度に応じた訪問支援や住環境調整への支援形態を講義する。また、地域住民を含む家族等への人的支援（教育・啓蒙）活動についても講義する。 | 坂上哲可 |
| 10・11 | 地域連携医療に必要な知識、技術5 （訪問作業療法概念） | 人が来るということ」「行くということ」、不適切対応（家によって異なるということ、時間、駐車方法など）、精神的緊張など含む訪問作業療法の基本。 | 坂上哲可 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|--|---|------|
| 12・13 | 地域連携医療に必要な知識、技術6 自宅でのICF、支援形態、生活行為向上マネジメント) | 国際生活機能分類を念頭において地域を含む自宅生活に対する支援とその方法・形態や生活行為向上マネジメントの手法の活用を実践する能力・技術を涵養する。 | 坂上哲可 |
| 14・15 | 地域連携医療に必要な知識、技術7 (在宅の作業療法(実践例を含む)、効果判定・指標) | 趣味・余暇活動、機能訓練、生活環境に合わせたりハメニューと工夫訪問時間以外の生活と活動、生活期リハの意味、訪問リハの役割、評価(生活・家族・身体・精神)、計画立案、目標設定、予後予測、ADL・IADLの指導、自主トレ指導、生活機能向上連携、予防の視点・指導・介入、生活範囲拡大。 | 坂上哲可 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート(50%)と討論への取り組み(50%)で評価し、ペーパーテストは課さない。

【教科書】

使用しない

【参考書】

適宜紹介する

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自事前に調査し学習すること(80分)。

講義後与えられた課題への取り組み、レポートを提出すること(80分)。

【実務経験】

坂上哲可(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。